

ワーキング・タイトル 2018-2019

国際交流基金アジアセンター 上映企画・実践ワークショップ

募集要項

国際交流基金アジアセンターは、平成 29 年度に引き続き『ワーキング・タイトル 国際交流基金アジアセンター上映企画・実践ワークショップ』を実施することとなりました。以下の要項をご参照の上、ご応募ください。多数のご応募をお待ちしております。

I 事業概要

1. 目的

映画制作者を育成するプログラムは国内外問わず存在し、環境は比較的整っている一方、製作された映画を上映する専門家を育成する体制については、未だ整っているとは言えません。国内のみならず、海外の大学・映画専門学校においても、映画上映は理論の一部として教えられることが多く、実践的なプログラミングを学ぶ場は少ないと思われます。

『ワーキング・タイトル 国際交流基金アジアセンター上映企画・実践ワークショップ』(以下「本事業」とします)は、日本及び東南アジア地域において映画を広く一般に伝える上映専門家を支援することにより、以下の目的の達成を目指します。

- ・育成：より多様な上映環境の実現、さらには映画製作の環境の向上のため、日本と東南アジアにおいて有望な若手映画上映専門家を育成する。
- ・協働：日本と東南アジアにおける本事業への参加を通じた共同作業により、事例共有によるノウハウの獲得や、相互理解を促進する。
- ・ネットワーク：日本と東南アジアの次世代若手映画上映専門家間の継続的なネットワークを構築する。

2. 主催者

主催：国際交流基金アジアセンター

共催：イメージフォーラム（予定）、マニラ日本文化センター

3. 参加者

映画プログラマー、上映企画担当者。国ごとの参加者は以下のとおりです。

- (1) 日本：2名

- (2) 東南アジア諸国（インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス、東ティモール）：4名

※詳細は3ページの「応募資格」欄をご参照ください。

4. スケジュールおよび会場（詳細は別添資料をご参照ください）

第1フェーズ（東京でのグループワーク、映像祭参加「イメージフォーラム・フェスティバル」、フェスティバル期間中の上映とシンポジウム、関係機関訪問など）

2018年8月5日（日）～13日（月）（予定）（9日間、移動日含む）

会場：国際交流基金事務所、イメージフォーラム・フェスティバル会場、他

第2フェーズ（マニラでの映画祭・上映施設などの視察、関係機関訪問、上映会実施）

2019年3月前半予定（5日間、移動日含む。調整中）

会場：調整中

各フェーズの間の期間も、参加者は上映プログラム作成作業を継続します。

※スケジュールは変更される可能性があります。

5. 内容

(1) 東京におけるグループワーク、上映、シンポジウム

参加者は、応募書類に記載された関心領域やテーマに応じて2つのグループに分かれます。各グループは、上映専門家（以下「アドバイザー」とします）の指導の下、上映プログラムを作成する実習をおこなうこととなります。また、イメージフォーラム・フェスティバルの会期中に課題作品を鑑賞してディスカッションしたうえで、プログラミング実習をします。そして、実習の成果発表として、作成したプログラムの上映およびシンポジウムを実施します。参加者は上映に立ち会うとともに、上映前後に実施されるシンポジウムに登壇し、プログラミングの趣旨や本事業の経験を発表します。さらに、滞在中には日本と東南アジアを代表する映画専門家によるレクチャーや、関連機関の訪問もおこなわれます。

(2) 東南アジアにおけるスタディツアー、上映、

東京での上映会の後、参加者は2019年3月前半に実施予定のマニラにおける上映会のためのプログラムを作成します。アドバイザーの指導のもと、本格的な企画・運営のための作業を2018年11月～2019年2月に行ないます。参加者同士は電子メールやその他のオンラインツールを用いて連絡を取るようになります。

上映会の実施とともに、渡航先の映画祭やオルタナティブ・スペースなどへのスタディツアーを実施し、キュレーターやプログラミング担当者などへのインタビューをおこないます。実施国を含む詳細は採用者に別途通知します。

6. 言語

本事業は、原則として**英語で実施**されます。

II. 応募方法

1. 応募資格

応募者は以下の条件を満たしていることが必要です。

- (1) 日本あるいは東南アジア地域の国を拠点に活動する若手映画プログラマー、プログラム担当者、フェスティバルや上映施設の企画・運営担当者などの上映専門家。年齢 45 歳未満、経験 15 年未満程度を想定しています。
- (2) 3 件以上の一般向け上映イベントあるいはプロジェクトをプログラミングした、あるいは開催した経験があること。単独でもチームとしてでも可。シニアのキュレーターのアシスタントとしての経験も可とします。
- (3) 今後も上映活動に継続して取り組む意思のあること。特に、来年度以降に本事業での経験を活かした上映プログラムを実施する意思があることが望ましい。

2. 提出書類

※以下の様式は英語ですが、記入の際には英語、日本語のいずれの使用も可とします。

(1) *Entry Application Form* (Form A)

(2) *Program Proposal Form* (Form B) :

以下のガイドラインに従い、上映プログラム課題として企画案を 1 つ作成してください。

ア.-[プランA] または[プランB]のいずれかについて、上映プログラムを作成してください。

-[プランA] “響きあう”というコンセプトのもと、下記のテーマからひとつを選んで、上映プログラムを作成してください。

- (a) 自然への畏敬 ——美意識と精神性——
- (b) 混成と調和 ——ポリフォニー——
- (c) 多様なアイデンティティ ——個の発信——

-[プランB] 「20 代前半の初めて上映会に来る観客層」に向けて、映画の多様性をアピールするような上映プログラムを作成してください。

※[プランA] [プランB]とも下記の条件となります。

イ. 上映プログラムに含むことができる作品の数は最大 3 本とします。

ウ. 上映作品は東南アジアまたは日本で製作された映画・映像作品のみとします。

エ. 「Section 4: Description of the Project」欄の記入に当たっては、以下を考慮に入れてください。

- ・ 上映プログラムは本事業の一環として、東南アジアにおける上映に向けて、作品調達の上映可能性が高いこと。
- ・ 想定される観客に対してのオーディエンス・デヴェロップメントとして、どのようなアプローチを行なうかの現実的プランを立てられること。

3. 応募締め切り

国際交流基金アジアセンター宛に応募書類を郵送してください。応募締め切りは **2018 年 6 月 28 日 (木)** (必着) です。

4. 選考

国際交流基金アジアセンターによる選考の後、採用者には電子メールにて 2018 年 7 月初旬にご連絡いたします。

5. 主催者の負担項目

東南アジアへの往復航空賃 (第 2 フェーズ)、宿泊費、国内旅費 (必要な場合)、食事、旅行保険。関係機関訪問の際の入場料も主催者が負担します。本事業に直接関係のない費用は参加者負担とします。上映会開催に要する費用は主催者が負担します。

6. お問い合わせ

本件に関しご不明な点等ございましたら、以下にご連絡ください。

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-16-3

国際交流基金アジアセンター 文化事業第 1 チーム

森宗 厚子

Email: <Atsuko_Morimune@jpf.go.jp> | Tel: 03-5369-6140 | Fax: 03-5369-6141

別添

ワーキング・タイトル

国際交流基金アジアセンター 映画上映企画・実践ワークショップ

スケジュール

2018年6月中旬

募集要項発出

2018年6月下旬

参加者選考

- ・6名（日本：2名、東南アジア：4名）を選出する。
- ・企画のテーマ、内容に基づいて2つのグループに分ける。

2018年8月5～13日（予定）

第1フェーズ：グループワーク、日本における上映・シンポジウム開催

- ・9日間（移動日含む）のワークショップを東京でイメージフォーラム・フェスティバル中で開催。
- ・期間中、外部講師によるレクチャー、ワークショップ、映画祭見学、関係機関訪問を実施する。
- ・映画上映専門家（アドバイザー）による指導・助言の元、グループごとに（1）2018年8月の日本における上映のプログラミング実習、（2）2019年3月の東南アジアにおける上映のためのプログラム構想、を行なう。
- ・2つのグループによるプログラムをイメージフォーラムにおいて上映。参加者およびその他登壇者によるシンポジウムを併催する。

2018年11月～2019年2月

東南アジアにおける上映の準備作業

- ・各グループの参加者は、オンラインで連絡を取り合いつつ東南アジアにおける上映の準備をおこなう。
- ・アドバイザーは指導・助言を継続する。

2019年3月前半（予定）

第2フェーズ：マニラにおける上映・スタディツアー

- ・2つのグループによるプログラムマニラにて上映。
- ・さらに、現地の映画祭や上映スペースなどを訪問するスタディツアーを実施する。

*スケジュールは変更される場合があります。

以上